

LEADERSHIP CHALLENGE

大隈塾LCレポート vol.6

大隈塾リーダーシップ・チャレンジは9月13日（土）14日（日）、ワークショップ「稲刈り」を行いました。

前の週からの天候不順。会場となる鴨川自然王国（千葉県鴨川市）のスタッフと連絡を取り合いながら、開催を決定。当日は天気晴朗なれど、やはり稲は風で倒れ、田んぼは長雨でぬかるみ、場所によっては膝まで田んぼに足を突っ込んでの作業。まるで田植えのような稲刈りでした。

倒れた稲を刈るのは大変な作業です。倒れた方角に身体を向け、腰をかがめ、カマを使って稲を起こし、空いている方の手でその稲を掴み、刈る。

一束刈ったら、それを握ったまま二束、そのまま三束と刈って地面に置く。同じ作業をしてX印になるように置く。X印で2回重ねたら、刈った刈目から15cmぐらいのところを「すがい縄」でしばる。すがい縄は、稲刈り作業前に自分たちで編んだものです。

ある程度刈って稲が倒れている方角が変わり、そうすれば身体も同じ方角に向け直し。つまり、田植えのようにまっすぐには進みません。自分で近未来の方角を計算しながら、手と足を動かしていきます。

こうして稲刈り作業は黙々と進み、乾燥させるために稲架（はざ）掛けにしています。

刈る、干す、脱穀、精米して、次回の授業のときに自分たちで育てたコメをお配りします。ご家庭で召し上がってください。

なお今回も田植えと同様、学部（早稲田大学）



の大隈塾ゼミ生、ゼミOGOB生と一緒に、隣り合った世代ではありますが世代を超えて、「大隈塾生」として活動し、親睦を深めることが出来ました。

【受講生のレポートより】



塾生でチームを組み肉体労働にいそしみ、一定規模の稲刈りを完遂することで「一体感」や「達成感」が感じられた。（一方で、塾生に「どこまで稲刈りを完遂するか（範囲や手順等）」を目標として設定し、その目標に向けて、私を含めた塾生に主体的に取り組ませてもおもしろいのではと感じた）

田植え合宿と同様ですが、みんなと開放的な雰囲気の中で多種多様な話ができ、親睦を深めるといふ点からは極めて有意義な機会でした。また今回の研修は、早稲田大学のゼミ（大隈塾）の現役ゼミ生及びそのOBも10名程度参加しており、稲刈り作業や食事はゼミ生と合同で、交流する機会があったことがよかったです。

機械がない時代は老若男女問わず、すべて手作業にて行っていたことを思うと、昔の人の体力に感心するとともに、一家総出で行っていたイベントであったと言われることにも合点した。作業においては、稲を束ねる縄を含め、稲刈りの一つ一つの手順を丁寧に教えていただき、昔から伝えられてきた効率よく刈るための方法を肌で感じることで、日頃接することが少ない日本の伝統や技術に触れることができた。

稲藁から縄を作る作業の中で、神社の注連縄も藁から作るという話題が出ました。

今まで、神社で何度も注連縄を見ているにも係わらず、それについてもどのように作られるのかについても、思いをめぐらせることは無かったことに気が付きました。今年の3月に出雲大社を訪れて、日本最大級の注連縄を見た時、その大きさに感動はしましたが、その材料が何であるのかまでには考えが及ばなかったことを思い出した為です。そのため、それは、神社において、注連縄が目立つ、目立たないに関係なくて、そもそも、注連縄があまりにも身近で当たり前の存在になり過ぎている為に、改めて注連縄について考えようとしなくなっているからなのではないか、と思いました。

このようなことは注連縄だけではなく、他にもあると思います。日本の伝統農業を知ることは、日本の伝統文化への理解にも繋がることを実感しました。

=====

こんなにザリガニを触ったり、蛇を触ったりしたのは子供の頃以来でした！とても楽しい経験をさせて頂きました。

=====

政財界のリーダーから聞くお話も貴重ですが、こうした体験をすることも「リーダーシップ」を学ぶためには重要であると感じました。政治外交やビジネスとは異なる世界があり、実はそれが私たちの生活を根幹で支えていることに改めて意識を向けられました。私の中では地域資源の活用について関心が生まれました。



=====

人事・教育担当者の立場からの要望ですが、年間プログラム全体の中での田植え・稲刈りの位置づけはもう少し明確にすべきと考えます。その意味に自分で気づくことが大隈塾LCなのだとも言えますが。

=====
食事、特に野菜がとても美味しかった。あれはストイックな肉体労働の後だからそう感じるのか、単純に美味しい野菜なのか、はたまたその両方なのか.....。

=====
体力的に持たなかったこともあり、途中で稲刈りから縄作り担当にさせて頂きましたが、客観的に考えてみると、それぞれが自分の体力や能力等に合わせてうまい具合に分業することが昔の農業ではできていたのかなと感じました。それはある程度画一化した社会でそれぞれの役割分担が分かりやすかったことによるものだと思いますので、昔の方がよかったとか今の方がいいということもありませんが、現在は夫々の生き方が多様化することで、役割分担も複雑化しているような気がします。



大隈塾リーダーシップ・チャレンジレポート vol.6

2014年9月30日発行

大隈塾事務局（一般社団法人ストーンスープ）

村田信之 mura@ta2.so-net.ne.jp

169-0051 東京都新宿区西早稲田1-9-19 アーバンヒルズ早稲田207

tel:050-3558-7527